

## 泉州地域活性化のための産、官、学による 「りんくう タコ カーニバル」実施報告書とその展開

安 達 清 治

### はじめに

地場で採れるもの、地場で優れた産品を地元の人が消費することを「地場地消」といい、良いものは良い、と評価しもっと消費し利用し、楽しむことである。大阪の泉州地域は、こうした産品等があり、これらを使用し、地域住民が楽しめるイベントによって地域の活性化を図ることを目的に実施された。

こうした目的のために、「りんくう タコ カーニバル」の名称で大阪府田尻町の漁港で開催され、地域のイベントとして評価を得た。産（たこ焼き店、漁業関係者、地場）、官（町、市）、学（大阪明浄大学）により初の実施であり、この催しに、開発から実施までを実行委員としてボランティアとして参加し運営した。地域活性化の事例としてこの報告書をまとめたものである。

なぜ“たこ”かは、泉州沖は有数のたこの産地であり、たこ焼きに使用するたこ、たこ飯、たこ天、サシミとして美味ながらあまりにも知られていない。このために、この泉州のたこをもっと宣伝することが必要でないか、そのためにどのような方法があるかを議論した。もっとも良い方法としては、誰でもが手軽に食べられる「たこ焼き大会」が理想的と成った。

大会では、たこを見る、食べる、たこ焼きを作る一原則で実施することになった。見るでは、市内の有名店のたこ焼きの実演と評価、食べるでは有名店のたこ焼きを食べる。作るではたこ焼き教室の開催。同時開催としては、子供たち向けには、地域に伝わる民話をテーマにした紙芝居大会。たこキッズによるライブショーも決定した。ライブショー等大人にも子供にも好評であった。当然、地域の産品の即売コーナーも出店し、たまねぎ、ジャガイモ等など完売している。泉州の特産であるタオ

ルの即売コーナーも好評であった。

特に、泉州地域は、大阪市周辺のアーバン型の多様化したハード面の施設はなく、ローカル型の地域である。このためには、地場を利用した産品の活用と村祭りのようなイベントが必要となる。手軽なたこ焼きをメインテーマとした催しは、予想を上回る **9000** 人が参加し、効果ある観光イベントであることを実証した。定例化すれば、地域活性化に役立つイベントであることを確信した。

### たこカーニバルの実施の経緯

たこカーニバルの実施は、**3月11日**に、二宮敬郎氏（泉南ニュース社社長）の呼びかけによるものであった。「地場のすばらしい産品をもっと知ってもらうこと、そして、地域おこしに役立つ催しをしたい」という意見であった。この呼びかけに対して、田尻町、泉南市、泉佐野市、向井美千代氏（むかいクッキング主宰）、大阪明浄大学等が賛同した。

「地場のおいしい泉州たこを使ったイベント」を実施する、というのが第**1**回の会合の意見となった。大学の参加は、地域おこしを学生と一体となり協力する、とするもので当然、ボランティア参加で協力することになった。たこ焼きならば、親子で参加できるし、楽しめるものになるとした意見となった。

第**2**回の会合では、「田尻町の漁港のテラスを使い、たこ焼き大会ができる」。しかし「テラスは参加人数が多くなると危険であり、安全上からも、広場を使用したほうが多くの参加者を呼ぶことができる」とした意見で、一致した。田尻町漁港では、広場を無料で開放すると承諾があり、広場を全面使用した催しが可能となった。

町、市側は、住民の参加の催しであり、テントの無料

貸し出し、人員も提供することが了承された。

第3回の会合では、「たこ焼き大会とする」、「地場の製品のコーナーを作る」、「たこ焼きづくりの参加型がいい」、「ライブショーにいい案がある、たこキッズのショーがいい」、「地場の紙芝居があり、子供たち向けにいいと思う」、「たこ飯づくり、たこ天づくりができる」等々の意見があった。

これらの意見はそれぞれ、以下のようにまとめられた。

- ① 町、市の関係するたこ焼きやに参加を要請する。(別表参照)
- ② 地場産品コーナーは、参加費を必要とせず参加してもらおう。(確保)
- ③ たこ飯、たこ天づくりは、向井美千代氏が了承。
- ④ ライブショーは宇高香里さん了承。
- ⑤ 紙芝居は了承。
- ⑥ たこ焼きコンテストの商品は、寄付を募る。(別表参照)
- ⑦ コンテストの委員長は、大阪明浄大学の安達に決定。
- ⑧ 場内整理、参加者集計は、大阪明浄大学が担当する。(1年学生10名を確保)
- ⑨ 本部、進行、会計はニュース泉南が担当する。
- ⑩ 参加者予想は2000人とする。(現実には9000人となった)

第4回以降は、各セクションが細かい折衝、ポスター作りや町、市の広報をお願いなどを行った。

開催は、平成15年5月18日(日)に開催した。天気は快晴で9000人が参加した。

### たこカーニバル実施報告書

たこカーニバルは、二つの構成になっている。

その一つは、たこ焼きコンテスト等でありもう一つは、ライブショーである。

たこ焼きコンテストは、プロのたこ焼き店6社によるものである。この出店は、泉佐野市、阪南市、田尻町、羽曳野市の各市町からの出店である。また、タコ飯、タコ天の販売、親子によるたこ焼き体験も実施した。もう一つのライブショーでは、宇高香里とたこボールキッズのステージショー、タコとかにの紙芝居ショーである。いずれも好評となった。

また、自場産品の販売コーナーは、タオル、地場のたまねぎ、ジャガイモ等の農産物の即売も実施した。

### たこカーニバルの実施の詳細

1. いずみだこを使ったたこ焼き六店舗による味比べ及び人気投票。  
参加店＝浪花壺一(泉佐野市)・すずや(阪南市)・高浦商店(田尻町)・アジカン(阪南市)および新和食品(羽曳野市)
2. 地元料理家によるたこ飯、たこ天の販売。  
地元田尻町出身の料理楽道家 向井美千代さんのレシピによるもの。
3. 大阪府漁業連合会によるたこカラアゲの販売。
4. 親子「たこ焼き」体験。  
山内製粉株式会社の協力で親子でたこ焼きの「焼き体験」。
5. タコカーニバルにちなみ「宇高香里とたこボールキッズ」によるステージ  
「たこやきのうた」「たこやき音頭」のライブステージ(2回)
6. タコカーニバルにちなみタコとカニの紙芝居  
泉州に伝承するお話をテーマにした紙芝居2作。岸和田市天性寺の「鮪地藏の話」と泉南市樽井に伝わる「カニの恩返し」。
7. 人気投票  
来場者と特別審査員によるたこ焼き人気一番店を選考、一番店には認定証と、副賞の「いずみだこ(まだこ)」10キロを贈呈した。
8. 人気投票参加者の中から抽選で地域産品などが当たる「抽選会」  
タオル詰め合わせ(大阪タオル工業組合)2名。加工品詰め合わせ(泉佐野農産加工部なすの花)2名。  
水なす20個(泉佐野4Hクラブ)1名。むぎ茶5個入(浪花壺一)6名。クオカードとバスタオル(大阪明浄大学)5名。絵ハガキ・テレカ(泉佐野市観光協会)10名。活鯛(田尻漁業協同組合)20名。軍手など地場産品詰め合わせ(泉南市地域振興課)5名。

### たこカーニバルの実行委員会

実行委員会は、当初からまとめ役に藤田純子氏(ニュース泉南編集長)が当たった。

第1回は田尻町ふれあいセンターで3月11日(火曜日)に開催した。以後、開催日まで毎週1回開催した。第1回の参加には、田尻町、泉南市、泉佐野市のスタッフ、ジェーコム、向井美千代氏(むかいクッキング主宰)、西浦栄一氏(田尻漁業協同組合長)、安達清治

(大阪明浄大学)であった。

最終的に委員会は、実行委員長は明松正二氏(りんくう五協統括)に決め、委員は15人にもなった。しかも、産、官、学のメンバーがそろい初の会議が行われた。また、大阪明浄大学からは、ボランティアの学生を10人参加させて協力している。

また、二宮啓郎氏(泉南文化ジャーナル社社長)は、第1回の呼びかけの実行委員会に参加してから、すべての委員会に参加し助言と協力をしている。

タコカーニバル実行委員会メンバー

実行委員長

明松 正二(りんくう5協統括・泉佐野漁業協同組合長)

副実行委員長

西浦 栄一(田尻漁業協同組合長)

委員

堀田 幸人(田尻町事業部理事兼産業振興課長)

木岡 敏雄(泉南市民生活環境部次長兼地域振興課長)

信貴 請磁(泉佐野市民産業部商工労働観光課長)

安達 清治(大阪明浄大学観光学部教授)

中尾 清(大阪明浄大学観光学部助教授)

越谷 剛己(田尻町事業部産業振興課主事)

信野 好司(田尻町事業部産業振興課主事)

射手矢光雄(泉佐野市民産業部商工観光課課長代理)

坂口 隆(泉佐野市民産業部商工観光課観光振興課係長)

金谷 圭宏(泉南市民生活環境部地域振興課商工振興係長)

向井美千代(料理研究家 むかいクッキング主宰)

田中 孝司(オフィス・タナカ代表)

角下 知剛(スタジオプランカ・ニュースせんなん企画室)

藤田 純子(ニュースせんなん編集長)

二宮こずえ(ニュースせんなん総務部)

資料-1 アンケート結果と分析

回収数は533通である。

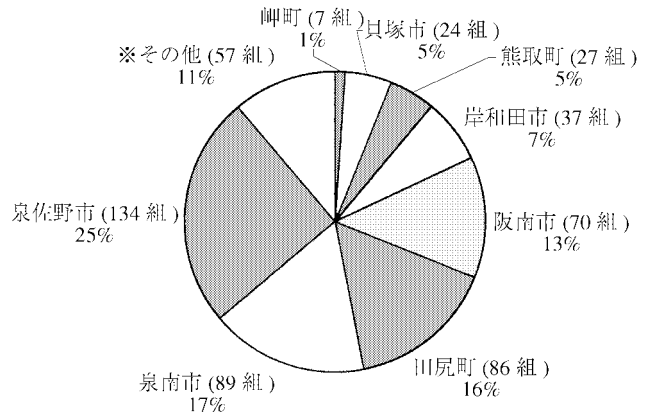
参加者の地域別の結果は、地元の田尻町が全体の16パーセント。もっとも構成比が高かったのは、泉佐野市で25パーセントである。泉南市17パーセントを加えると中心地域は58パーセントになる。

地域の参加は、周辺地域を合わせて全体の89パーセントになり、地域のイベントとして当然である。その他

の地域は11パーセントになる。大阪市や豊中市、和歌山県等(下表参照)などであり、たこ焼きイベントに対する関心度が高いことを示している。

和歌山県はともかく、大阪市等の遠距離地からの参加は、今後、この種のイベントが、参加が見込めるということも予想できる。

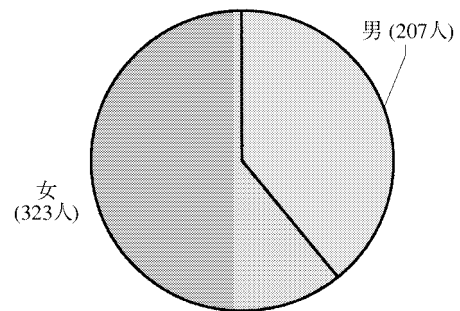
①参加者地域の分類



※その他：羽曳野市、和泉市、泉大津市、茨木市、大阪市、豊中市、西宮市、堺市、枚方市、藤井寺市、和歌山県

②参加者の性別分類

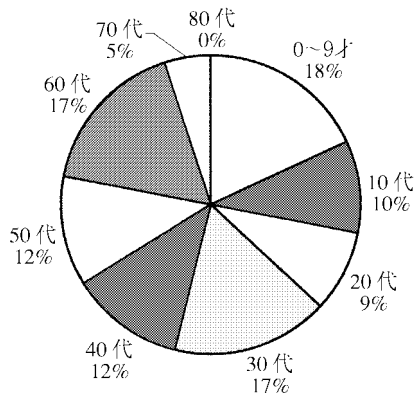
参加者の性別分類では、女性が61パーセント、男性が39パーセントである。参加者は母親と一緒にの組が多いということであり、タコ飯づくりがあり、やはり女性に人気のイベントであることを示している。



③参加者の年齢別分類

参加者のうちで0-9歳が18パーセント、10代が10パーセントで合計が28パーセントになる。30歳から50歳は41パーセントであり、親子ずれの参加者が中心となっていることを示している。

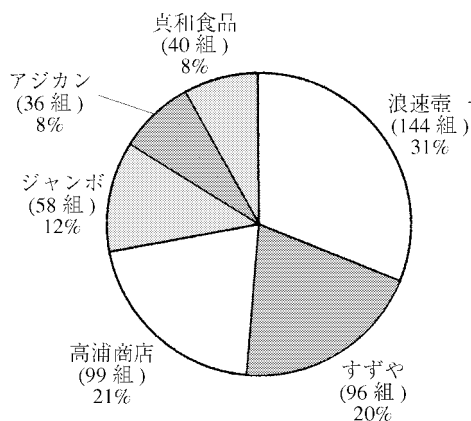
注目されるのは60歳から80歳までのシルバー層が22パーセントにもなっていることで、シルバー層にもアピールできるイベントである。



④たこ焼き店の人気分類

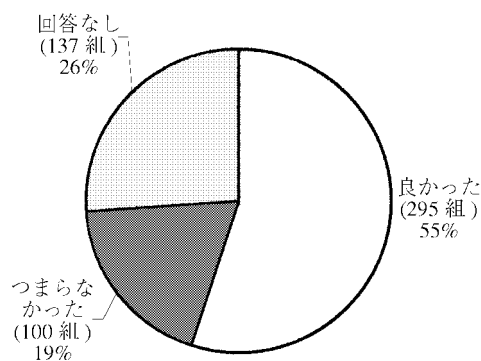
たこ焼きコンテストの結果は、トップが浪花壺一で31パーセントである。アジカンと新和食品がともに8パーセントと回にある。

この結果は参加者が、1番に浪花壺一に並び、最後に新和食品になったことに関係すると見られる。新和食品まで食べきっていない層もあるためである。いずれもプロのたこ焼きやであり、これほど差がつくのは不自然である。



⑤たこフェスタの人気度（感想）

たこフェスタの人気度は、全体の55パーセントが良かった、としている。反対につまらなかったのは、19パーセントである。



ーセントである。具体的な理由はこのグラフからはわからないが、クレームの一つには、たこ焼きの購入が時間がかかったこと。たこ焼きクーポンも途中で発売中止をしたことなどがあげられる。

良かった

- タコが美味しかった
- タコが美味しかった
- 安くて美味しかった
- 美味しかった
- タコ飯、タコから揚げ、美味しかった
- いっぱい食べれた！
- たこ焼きが美味しかった
- 美味しかった
- 面白かった
- 美味しかった
- 美味しかった
- 美味しかった
- 美味しかった
- 安くて美味しかった
- 美味しかった
- 熱くて美味しかった
- 美味しかった
- 美味しかった
- 美味しかった
- たこ焼きが美味しかった
- 美味しかった
- タコ唐揚げが美味しかった
- タコ唐揚げがおいしかった。
- タコが美味しかった
- 美味しかった
- 美味しいものが食べれて良かった。
- たこ焼きが良かった
- タコ飯がおいしかった！またイベントして下さい。
- タコが美味しかった
- 美味しかったけど、全部食べきれなかった。
- むちゃくちゃ美味しかった
- 一日にいろんなたこ焼きが食べれて楽しかった
- タコ飯、タコ天が美味しかった。
- たこ焼きが美味しかった
- 美味しかった
- 美味しかった
- 美味しかったけど、並ぶのがしんどかった。
- タコ唐揚げが美味しかった。
- 美味しかった
- 美味しかった
- 熱くて美味しかった
- タコ飯が美味しかった
- タコ美味しかった
- タコが大入りで美味しかった。



- 地元の雰囲気が良い。
- 関心がある人が多くてよかった
- 活気があってよかった。
- 活気があった
- 田尻の漁港がこんなに賑やかだったのを初めて知った。これからは遊びにきたい。
- 歌も楽しかった。
- 歌のお姉さんがよかった。
- たこボールキッズがかわいかった
- たこボールキッズがかわいかった
- 浪花壺一がおもしろかった。またイベントして下さい。
- すずや最高！
- たこやきジャンボは最低だった。素人の方がうまかった。
- スタッフの皆様お疲れ様でした。
- 初めてこんなイベントに参加して、賑やかで楽しかった。美味しいものをいっぱい食べて良かった。

#### つまらなかった

- 待ち時間が長い
- 待ち時間が長くしんどかった
- 待ち時間が長くしんどかった
- もっといっぱい食べたかった。
- 並ぶのがしんどかった
- 待ち時間が長くしんどかった
- 待ち時間が長くしんどかった
- 待つのが長くて大変だった
- 暑くて人が多くて疲れた。
- 人が多くて疲れた
- 並ぶ時間が大変だった。
- 待たされすぎ！
- 待ち時間が長くしんどかった
- しんどかった
- 待ち時間が長くしんどかった
- 並ぶのがしんどかった
- 混んでた。
- 待ち時間が長くしんどかった
- 待ち時間が長くしんどかった
- 並ぶ時間がおおすぎる。
- 待つのが長くて大変だった
- たこ焼き以外、食べれなかった。
- 待たされすぎ
- USJ よりも待ち時間が長かった。
- 混みすぎ。家で焼くほうがうまい。
- 1店舗しか食べられなかった
- 待ち時間が長くしんどかった
- 手際が悪い
- 人が多くて疲れた
- タコ飯、段取りが悪い。
- 整理券が必要
- もっといっぱい食べたかった。
- 待ち時間が長すぎ。
- 待っているのがしんどかった
- 混みすぎ。
- 待つだけでくたびれた。
- 並ぶのがしんどかった
- 並ぶ順番がぐちゃぐちゃ。
- 待ち時間が長くしんどかった
- 段取りが悪い
- チケットを思う数、買えなかった
- 1軒並ぶのに2時間かかった
- 待ち時間が長くしんどかった
- 待ち時間が長くしんどかった
- 場所が狭くて、並びにくかった。
- 人員整理ができていない。
- 味比べができなかった
- 待ち時間が長くしんどかった
- 1軒並ぶのに2時間かかった
- 整理券が必要
- 1店舗しか食べられなかった
- 待たされすぎ！来る人数と出店数を考えるべき
- 味比べするのが大変だった
- タコ飯に1時間待たされた。段取りが悪い。
- 待たせすぎ！
- 待ち時間が長くしんどかった
- 並ぶ時間がおおすぎる。
- タコ飯、待たせすぎ。
- 現金で買うようにしてほしい
- タコ飯の順番待ちで、手前で御飯がなくなった。
- しんどかった
- 待ち時間が長くしんどかった
- 全店食べられなかった。
- 思う数のチケットが買えなかった
- 並ぶのがしんどかった
- 予約整理券をだせばいいのに。
- 待ち時間が長くしんどかった
- 待ち時間が長くしんどかった
- 2時間近くならんだ。コンテストなのに1店舗しか食べられなかった。
- 行列でダンコになっていた。現金売買にしたほうがよい。
- 待つのが長くて大変だった。流れ販売をしてほしい。
- 3個限定で販売してくれないから、全店たべれなかった
- すごい人で、一店しか食べられなかった。
- 並ぶのに時間がかかって食べれなかった
- 行列が長くて、並ぶのが大変だった
- なかなかたこ焼きが買えなかった。
- なかなかたこ焼きが食べられなかった
- 6店舗のたこ焼きを1バックにしたものを買えるようにしてほしい。
- チケットを買うのもやっとな、商品を買うのもやっとな。子供連れには最高だった。
- 一通り食べれるような流れにしてほしい。
- 食べるのに、待ち時間が1~2時間。足が痛くなって疲れた。

- 一店舗しか食べれなかった。
- 待ち時間が長くしんどかった
- 並ぶのがしんどかった
- 満員で一店しか食べれなかった。
- 順番待ちがしんどかった。でも天気がよかった。
- 地元のタコを食べる楽しみが、モロッコのタコヤキにはがっかり
- ロープ等を使用して、通路をつくってほしい。
- 列の通路をつくってほしかった
- キャパ不足。比べる間もなく、2店舗しか食べられなかった。
- タコヤキを全部買えなかった。一人3個を全種類買える流れにしてほしかった。
- もっとましなタコヤキやくように!アジカンはだめ!
- もっと早い対応があるはず。待たせ方があるだろう!

## 展 望

「たこカーニバル」は、タコをテーマにして泉州地域の住民等9000人が参加して楽しんだイベントである。このイベントから以下の点が指摘できる。

- ① タコがテーマのイベントで十分に関心が集められる。
- ② イベントのクレームよりは、苦言があった。(あえてあげれば、参加者の予想以上のためタコ焼きの購入者が多く、混雑があった。しかし、入場制限は不可能であり、クーポン券の販売中止としたことがクレームとなった。)
- ③ 次期開催も可能のイベントである。

また、田尻漁港の開催場所にある施設は、このイベントによって、さらに利用者が増加していると関係者が語っている。

- ① 田尻漁港は、漁港の施設のほかに、ヨットハーバーの施設、海釣り堀の施設、レジャー漁船も運航している。
- ② 田尻漁港には、レストラン施設(コーヒーショップ、すし店、そば店)、ウォーターレジャー用品店等とテラスおよびバーベキュー設備がある。
- ③ 田尻漁港に隣接して朝市場の施設がある。(日曜日のみ開催の市場)

これらの施設が、地域中心の利用から、周辺の利用に広がっており、利用者も増加していると、漁港関係者が語っていることから、これらの施設の活性化になっている。

しかも、朝市場は、これまで住民中心の市場であったが、周辺地域の買い物客も利用していること、さらに市

## チケット販売内訳

〈チケット売上枚数〉		
6492枚(6枚綴り×1082組)	¥324,600-	
〈チケット回収枚数〉		
●たこ焼き 3530枚		¥176,600-
浪花壺一	947枚	¥47,350-
すずや	779枚	¥38,950-
高浦商店	618枚	¥30,900-
ジャンボ	332枚	¥16,600-
アジカン	435枚	¥21,750-
新和食品	419枚	¥20,950-
●タコ飯	1340枚(670皿)	¥67,000-
●タコ天	826枚(413皿)	¥41,300-
●タコ唐揚	784枚(367皿)	¥36,700-
●ジュース	292枚(146本)	¥14,600-
計	8722枚	¥336,100-
チケット売上	¥324,600	
チケット回収	¥336,100	
	△	¥11,500-

↓  
スタッフへの無料配布チケット分(230枚)

## 人件費内訳

宇高香里様	¥10,000-	たこボールキッズ様	¥21,000-
熊谷真菜様	¥10,000-	阿倍栄子様ら3名	¥10,000-
饗庭きこ様	¥10,000-	向井美千代様	¥15,000-

## りんくうタコカーニバル決算書

〈収入の都〉	
協賛金(りんくう5協・ニュースせんなん)	¥350,000-
チケット現金収入(6枚綴り×1082組)	¥324,600-
ジュース現金収入	¥44,500-
計	¥719,100-
〈支出の都〉	
原価 たこ焼きチケット換金	¥176,500-
物品レンタル料	¥10,500-
消耗品・備品費	¥40,472-
印刷費	¥155,400-
(ポスター・チラシ・チケット・ステッカー)	
会場案内板制作・材料費	¥70,000-
食材費(タコ飯・タコ天)	¥36,832-
人件費(謝礼・出演料)	¥76,000-
ジュース購入費	¥51,880-
計	¥617,584-
差引残高	¥101,516-

場には、魚及び野菜類に限定されていた販売のメニューに加工食品や、小物類の出店もあり、こうしたことから、参加者の増加が市場に活性化ももたらしている。

(資料協力=泉南ニュース社)

「りんくう タコ カーニバル」記録写真



▲タコカーニバルの会場入口。



▲女性3人は大阪明浄大生である。



▲タコキッズによるライブショー。



▲タコを買う人の行列が続いた。



▲紙芝居も人気となった



▲タコご飯教室の風景

(写真=安達清治)